

# ここ 今、福島大学でしか学べないものがある

地域の再生復興を見据えながら、グローバル化が進展する社会で活躍できる「強い人材」の育成を目指し、学生が存分に勉学に励み、国際性を育み、社会的実践力を身に付けることができるよう、福島大学は応援しています。

## 1. 学類の活動から

### ◆ 人間発達文化学類 自然体験実習を通して1年次から企画・実践を学ぶ! ◆

「子どもと出会う」。これが自然体験実習の目的です。毎年、教員や保育士を目指す約70名の1年生が履修。実習は、8月上旬に小5～中3の子どもたち約120名が参加する「自然体験学校」を自分たちで企画・実施するという授業です。授業、といっても受け身の授業ではありません。もちろん、担当教員がアドバイスもしますが、企画をつくるのはあくまで自分たち。週1回の全体ミーティングのほか、自分たちに何ができるのか、グループごとに討論や準備を重ね、子どもたちの思い出に残る自然体験学校をつくりあげていきます。実習を通して、一生懸命取り組むからこそ得られる達成感と確実な実践力を身につけます。また、困難を一緒に乗り越えた仲間とは本物の友情を築け、学生生活を充実したものにしてくれるでしょう。



自然体験学校で子どもたちを前に

### ◆ 行政政策学類 ルーマニアの子どもたちから絵や手紙のメッセージ ◆

震災後まもなく、ルーマニアの子どもたちから福島県あてにお見舞いの絵が届き、県立美術館に展示されました。しかし、そのお礼の返事ができていないことを知り、学類のゼミで手助けとなる活動をするようになりました。返信の絵を小学生(川俣町)と中学校の美術部(福島市)に依頼したり、川俣町と福島市で届いた絵の展示を行い多くの方に知っていただく機会を設け、展示に訪れたルーマニア・スポーツ文化省のミハイ・セベ参事官へ、福島から絵を送ることも伝えました。26年は小中学生の絵が完成。完成した絵は川俣町と福島市で展示した後、ルーマニア大使館に届ける予定です。今後も福島県に送られた絵や手紙などの「文化的な支援」の調査・研究を行い、福島と世界が繋がる手助けができればと願っています。



展示作業も自分たちの手で

### ◆ 経済経営学類 「第9回 日銀グランプリ~キャンパスからの提言~」敢闘賞! 「第4回 ケータイ社会研究レポートコンテスト」最優秀賞! ◆

学類生のコンテスト入賞が相次ぎました。日本銀行主催「第9回 日銀グランプリ~キャンパスからの提言~」では、4名によるチームで応募した小論文が、全国39大学(120編)の応募の中、上位5チームに残り日本銀行本店での決勝大会に進出。日本銀行副総裁をはじめとする審査員を前にプレゼンテーション、審査員との質疑応答が行われ、見事、敢闘賞(4位タイ)を受賞。また、(株)NTTドコモ・モバイル社会研究所主催「第4回 ケータイ社会研究レポートコンテスト」大学生・短大生部門では、論文形式のレポートに34チームが応募、一次審査を通過した11チームに残り、最終プレゼンテーションを行い、最優秀賞を受賞しました。ゼミという少人数の教育クラスをいかした指導のもと、自分の関心を学問的に探求し、実践の場へチャレンジしています。



日銀GP/定例記者会見で受賞報告



ケータイ社会研究レポート/受賞会場にて

### ◆ 共生システム理工学類 人支援ロボットの開発 ◆

人-産業-環境の共生を目指す共生システム理工学類では、「再生可能エネルギー」、「環境保全」、「医療産業集積」等、福島県の復興に貢献する分野での教育・研究を強化しています。例えば、人支援ロボット「PENTAR(アイ・ペンター)」の開発。人支援ロボットは必ずしも2足歩行の人型ロボットである必要はありません。このロボットは、倒立振り子の力学的特性を活用することにより、「小さいながらも力持ち」で荷物運びやドアの開閉等の人支援機能が行えます。また、医療への応用を視野に入れた小型軽量で人に優しいロボットハンド・マニピュレータの実現や、湖沼の放射能調査用の小型の水中ロボットの開発なども行っています。研究室では、指導教員だけでなく、博士課程の大学院生からも多くを学びながら、共に研究に取り組んでいます。



人支援ロボット「PENTAR」を操作

## 2. 特色ある震災復興への取り組み

### ◆うつくしまふくしま未来支援センター（FURE）棟が完成◆

東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故による複合災害を受けた福島において、地域の課題に大学として組織的かつ迅速に対応するため、23年4月に「うつくしまふくしま未来支援センター」を立ち上げました。生起している実態を科学的に調査・研究するとともに、子ども・若者への支援、地域・産業復興計画支援、環境復元・再生可能エネルギーに関する取り組みを行っています。25年5月にはその活動拠点となるセンター棟も完成し、今後は福島の復興・再生に向けて、長期的な取り組みも見据えながら活動を展開していきたいと考えています。

★うつくしまふくしま未来支援センターHP <<http://fure.net.fukushima-u.ac.jp/>>



完成したうつくしまふくしま未来支援センター棟

### ◆環境放射能研究所（IER）による環境放射能の動態解明◆

原子力発電所事故で放出された放射性物質の動態や環境への影響を研究するため、25年7月に「環境放射能研究所」を設置しました。研究所の設置は、文部科学省の国立大学改革強化推進事業に採択されたもので、国内外の研究機関と連携し、温帯多雨地域における放射性物質による環境への長期的な影響の調査・研究を行い、環境放射能動態について解明することを目的としています。研究所のプロジェクトや研究活動はホームページからご覧になれます。

★環境放射能研究所HP <<http://www.ier.fukushima-u.ac.jp/>>



森林、河川、海洋における動態イメージ

### ◆COC事業「ふくしま未来学」による地域再生を目指す実践的教育

文部科学省の「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」に福島大学が採択され、原子力災害からの地域再生をめざす「ふくしま未来学」がスタートします。この事業は、原子力災害の経験をふまえ、地域課題を実践的に学習し、未来を創造する人材を輩出することを目的としています。地域再生を目指す「ふくしま未来学」授業科目群を体系化し、学類の枠を超えて全学生に開かれた特修プログラムとして開講し、被災地復興に寄与する実践的教育を展開します。

## 3. お知らせ

### ◆うつくしまふくしま未来支援センター「めばえちゃん」が受験生を応援！◆

福島県のみんな、特に子ども達を元気づけたいと決意して、うつくしまふくしま未来支援センターのスタッフとなっためばえちゃんが、キットカット（ネスレ日本㈱）とコラボして、全国15大学のキャラクターとして受験生を応援しています。めばえちゃんの好きな言葉は「胸を張って歩こう」です。



### ◆キャンパスイルミネーション◆

地域の皆様にキャンパスを開放し、大学を身近に感じ親しんでいただくとともに、学生・教職員のキャンパスライフの活性化を図るため、毎年キャンパスイルミネーションを行っています。飾り付けはすべて職員有志が行い、冬のひとときを彩っています。



## 4. 放射線への取り組みから

### ◆放射線への取り組みの公表◆

福島大学が行っている放射線への取り組みや毎週のキャンパス内放射線計測データは、HPからご覧になることができます。

★福島大学放射線に関する取り組み

<<http://www.fukushima-u.ac.jp/guidance/top/torikumi-housyasen.html>>

★福島大学キャンパス内及び附属学校園の放射線計測データの公開

<<http://www.fukushima-u.ac.jp/guidance/top/fukudai-housyasen.html>>